

當地の官憲では印の對ソ設謀輸出は「非友好的行爲」であるといふ石井康の言明に應へて「印の産物のソ聯向輸出はロシアがドイツと戦争してあるといふ事實からすれば當然なことである。たとへ石井康の解釋が日本政府の意見を正しく表明したものであるとしても、印官憲はこの立場を維持するであらう、印の政策は最近一關係によつて明かにされた、即ち彼はラジオ放送に於て、印はソ聯と特別な關係を結んでゐないが、ヒットラーの侵略の犠牲となつてゐるソ聯に對しては設謀、錫、ボーキサイト、其の他の産物を自由に與へる筈である」と述べた。これに關して、過去數週間に數隻のロシア汽船がソ聯向の設謀、石油、珈琲を積込む爲にスラバヤに入港したといふ以前の新聞報道が想起される」と述べてゐる。



外國宣傳情報 第百三十三號

昭・二六・一〇・一四
情報局第一部第二課

本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、重慶又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的な報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎米軍事使節團重慶着

△ローマ電 十月十一日 英語放送

(重慶發) マグルダ將軍を主班とする米國軍事使節は本日重慶に到着した

△大美晚報電 十月十一日 英語放送

(重慶發) 米國軍事使節主席マグルダ將軍は昨日重慶着。本日蔣總統と會見の豫定である將軍は「自分の使命遂行に必要な箇所は全部視察したい。またラングーン其の他の支向米國物資の輸送基地も訪る考へである」と語つた。しかし重慶が將軍の本據となるでらう。マグルダ將軍は一九三一年に駐支米國公使館附武官であつた。